



健康のまちづくり 友好都市連盟サミットに参加

城西大学経営学部教授 伊関友伸

健康のまちづくり 友好都市連盟サミット

平成29年3月4日、福井県高浜町で行われた「第1回健康のまちづくり友好都市連盟サミット」に参加した。サミットは、健康のまちづくり友好都市連盟が開催したもので、同連盟には、北海道稚内市、青森県大間町、千葉県千葉市、市原市、新潟県粟島浦村、石川県加賀市、福井県鯖江市、美浜町、高浜町、京都府宮津市、島根県益田市、広島県庄原市、山口県下関市、

宮崎県延岡市、小林市の15自治体に参加している。筆者は、連盟を応援する9名の顧問の1人として参加した。

全国初の市町村 単独医学部寄附講座

福井大学医学部地域プライマリケア講座は、福井県高浜町が福井大学に対して行う寄附講座である。高浜町には、公的医療機関としてJCHHO

若狭高浜病院（平成26年3月まで社会保険高浜病院）と町立和田診療所が立地している。高浜病院は、平成16年度に導入された新医師臨床研修制度の影響で、10名近く在籍した医師が3名にまで減少する。病院の存続を危ぶんだ野瀬豊高浜町長は、地域医療ワーキンググループを設置し、筆者は縁あってメンバーとなった。ワーキングで寄附講座を設置する提案が出て、平成21年4月、全国初の市町村単独医学部寄附講座としてスタートする。講座は総合診療で全国的に有名な寺澤秀一教授が週2回高浜町で指導を行うという贅沢な内容となり、現在では若狭高浜病院と和田診療所は年間120名を超える学生・研修医の集まる医療施設となっている。

井階友貴医師の 健康のまちづくりの取り組み

講座開設に当たって助教として高浜町に赴任したのが井階友貴医師である。井階医師は、住民が自分の問題として医療を考えていく必要があると考え、2009年9月に結成さ

れた「たかはま地域医療サポーターの会」と地域医療再生に関するさまざまな取り組みを行う。表1の「地域医療を守り育てる五か条」は、会の活動から生まれたメッセージである。当初、井階医師やサポーターの会は、地域医療の問題解決を目標に活動が行われていたが、次第に活動は健康やまちづくりにシフトしていく。「けっこう健康！ 高浜☆わいわいカフェ（健高カフェ）」は、健康やまちづくりに関心のある、関わっている人・団体がおしゃべりをすることで、人と人、団体と団体、地域と地域をつなぎ、人口や活動数の限られる地方でも効率的で効果的に活動・施策を

表1 地域医療を守り育てる五か条

- かんしん(関心)を持とう！
- かかりつけを持とう！
- からだづくりに取り組もう！
- がくせい(学生)教育に協力しよう！
- かんしゃ(感謝)の気持ちを伝えよう！

表2 健高カフェから実現、協議中の取り組み一覧

- 無料レンタサイクル
- 海岸リハビリロード整備&健康情報設置
- 病院リハビリ室セミ解放(介護予防事業)
- 小学校・PTAでの健康授業
- 健康ポイントシステム
- 野菜情報SNSページ開設
- 健高弁当レシピ開発・販売
- 生産食品出張販売
- 配食サービスの拡大
- お一人様(独居者)ランチ会
- 子育て支援 見える化システム
- カスタマイズ可能！健康じぶん手帳
- コミュニティカフェ
- JR小浜線観光列車
- 魚のブランド化と購買摂取促進
- 海浜レジャーに特化した産業・医学連携
- 町民暮らしの手帖
- ご当地介護予防体操 など

実現することを目指す活動である。健高カ
フェから表2のような取り組みが実現、実
現に向けて協議されている。

高浜の健康のまちづくりで欠かすことがで
きないのが「赤ふん坊や」(写真1)である。
キャラクター自体は、昭和63年に誕生した歴
史のあるものであるが、井階医師が健康のま
ちづくりのシンボルとして起用した。井階医
師は、積極的に赤ふん坊やの中に入って(一
体化して)、健康のまちづくりの意義やその
楽しさを訴えている。

全国にひろがる健康のまちづくり

プライマリケア講座が、全国の自治体で健
康のまちづくりを広げるための試みが「コラ
ボ☆ラボ」である。ワールドカフェにロジカ
ルシンキングを組み合わせたワークショップ



写真1: 赤ふん坊やとたかはま地域医療サポーターの会の皆さん

手法で、希望する自治体にスタッフがボラン
ティアで出向きワークショップを行う。
2016年度までに全国17カ所で行われてい
る。今回、連盟に参加した自治体は「コラボ
☆ラボ」を開催したことなどが参加の契機と
なっている。

ゆるい雰囲気で行われたサミット

サミットでは、規約を決める総会のあと、参
加自治体による「KEDプレゼン」が行われた。
各自自治体の健康のまちづくりに関する取り組
みを6分間で報告が行われた。相変わらず深刻
な医師不足に対応するために健康のまちづくり
に取り組む地域、増加する医療費を抑制する
ために健康づくりに取り組む地域など地域に
よって取り組む動機はさまざまであった。参加
自治体の投票により山口治太郎町長も参加し
た福井県美浜
町が最優秀賞
を受けた。

引き続き、
参加者による
「コラボ☆ラ
ボ」が行われ、
会場を9つの
グループに分
け、グループ
ごとに設定し
たテーマにつ
いて「原因」



写真2: コラボ☆ラボ

「理想」「手段」のそれぞれについて毎回でメン
バーを交換し、おしゃべりが行われた。写真
2は9グループの「食と健康 上手なアル
コールとの付き合い方」というテーマでの議論
の成果である。

夜は懇親会が行われ、全国から集まった参
加者は深夜まで交流を深めた。サミットは、
終始、ゆるいリラックスした雰囲気で行われ、
参加者は気づきとともに明日のやる気を受け、
サミットは成功のうちに終了した。

プライマリケア講座では、コラボ☆ラボの
開催や都市連盟に参加する自治体を募集して
いる。興味のある自治体は参加をされてはい
かがであろうか。

タイトルの「アスクレピオスの杖」とは、ギリシア神
話に登場する名医アスクレピオスの持っていた蛇(フ
スシヘビ)の巻きついた杖。医療・医療の象徴として
世界的に広く用いられているシンボルマークである。

筆者プロフィール

伊関友伸 (いせき ともし)

1987年埼玉県入庁、県民総務課、大利根町企
画財政課長、県立病院課、社会福祉課、精神保
健総合センターなどを経て、2004年城西大学経
営学部准教授、2011年4月同教授。研究テーマ
は、行政評価、自治体病院の経営、保健・医療・福
祉のマネジメント。総務省公立病院に関する財政
措置のあり方等検討会委員など、数多くの国・地
方自治体の委員等を務める。著書に「まちに病院
を!」(岩波ブックレット)「自治体病院の歴史 住
民医療の歩みとこれから」(三輪書店)などがある。